

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	通報者が申告する災害地点に違和感を感じ、再度災害地点を確認させ出動場所間違いを防止できた事案
3. 体験した事例の中心的要素	事故の当事者から119番通報まで複数の機関と人を経由したことにより、通報内容にズレが生じたもの。
4. 体験した事例の原因・理由	119番通報の経緯として、交通事故の当事者が110番通報し、警察からNEXCO西日本に連絡。その後、NEXCO西日本から119番通報があったもの。本事案は、警察から連絡を受けたNEXCO職員が直接119番通報を行ったのではなく、別のNEXCO職員が119番通報を行ったことにより災害地点のズレが発生。通信指令員が通報内容聴取中に話がかみ合わず違和感を感じたことにより、再度発災地点の確認を依頼。結果、異なる場所で災害が発生していることが判明したもの。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	
------------------	--

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和5年9月13日 午後7時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋内：消防本部通信指令室内
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させそうになった。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：指令災害点間違い
7. 事例体験時の活動	その他：指令業務
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	その他：指令業務（災害点聴取）
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	1年に数度程度の割合で体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[50]歳、勤続年数[30]年、現場経験年数[30]年、階級[消防司令補] 同様の活動[1年に数度]、任務[その他:通信指令員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[], 任務[]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[], 任務[]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	緊急車両を出動させるために災害発生点の聴取を行った。	
経過2	通報者	A高速道路下りのAジャンクションとBインターチェンジの間で事故が発生していると申告。	NEXCO職員
経過3	当事者A	その地点は当市の管轄ではない旨を伝え、災害点を再度確認するよう指示。	
経過4	通報者	A高速道路ではなく、B高速道路の下りでしたと申告を受ける。	NEXCO職員
経過5	当事者A	その地点も当市の管轄ではない旨を伝え、再度災害点を確認するよう指示。	
経過6	通報者	A高速道路上り車線からB高速道路に進入する地点が災害点であったと申告。	NEXCO職員
経過7	当事者A	当市の災害点と確定し、緊急車両を出動させた。	
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できた 集中力、注意力があった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

通報者が災害地点をはっきりと把握していなかったと思われるため。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--